

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570102550
法人名	医療法人 雅会
事業所名	グループホーム かざぐるま
所在地	宮崎市大字島之内7310-1 (電話)0985-30-2800
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22年 3月 31日

## 【情報提供票より】(22年3月16日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.47人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階	～ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(3月16日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低 70歳	最高 91歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	早稲田神経内科・宮崎善仁会・市民の森病院・宮崎北歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の国道沿に近く、病院、スーパー、高校、住宅団地があり利便性に恵まれた場所にホームは立地している。2階建て1階部分をグループホームが2階を同法人のデイサービスが利用している。併設して母体の医院があり連携して運営されている。運営者は人材育成に特に力を入れ、法人内外の研修に職員を積極的に参加させ資格取得に前向きに取り組んでいる。管理者と職員は力を合わせ利用者本位の質の高いケアの実践に努めている。利用者は職員の心のこもった暖かいケアに支えられ表情も明るく元気で安心して暮らしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議が開催されていなかったが、3か月～4か月に1回開催し、内容の充実にも取り組んでいる。鍵をかけないケアについては、1か所施錠しているが、利用者が自由に開錠でき、センサー利用と合わせて見守り、出られる時は、一緒に寄り添い出かけるようにしている。他の課題についても検討し前向きに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義やねらいを職員会議で話し合い、理解した上で改善に全員で取り組みサービスの質の向上に取り組んでいる。特にケア体制の見直しを行い、外出やレクリエーション活動の充実に取り組み、職員の介護意欲も高まっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3か月～4か月に1回開催している。会議には地元の消防団や警察の駐在所から参加することがある。会議では運営状況の報告や避難訓練等の話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月報告している金銭管理の文書に、家族への連絡欄をもうけ、利用者の暮らしぶりや健康状態等を詳しく報告している。また、家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	母体の医院や近隣の医療機関と合同で、毎年夏祭りを地元の人々を招待して行っている。また、ボランティアの受け入れや近くの保育園や高校との交流も行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営方針を理念としている。ミーティングで地域密着型サービスの意義や役割を話し合い、理念の見直しを検討している。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることが出来るよう全職員で理念について話し合い、ホーム独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議や日々の申し送り時に理念を全員で確認し、利用者本位のサービスが提供できるよう、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体の医院や近隣の医療機関と合同で、毎年夏祭りを地元の人々を招待して行っている。また、ボランティアの受け入れや近くの保育園や高校との交流も行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義やねらいについて職員会議で話し合い、理解した上で改善に全員で取り組みサービスの質の向上に努めている。		改善課題への取り組みが継続できるようにさらに取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月～4か月に1回開催している。会議には地元の消防団や警察の駐在所が出席することがある。会議では運営状況の報告や避難訓練等についての話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議をさらに充実するために、メンバーに地域の代表や家族の代表等を加え、2か月に1回程度定期的開催してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が実施する研修会等には積極的に参加して交流している。地域包括支援センターには運営上の課題等について相談や助言をいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月報告している金銭管理の文書に、家族への連絡欄をもうけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、家族の来訪時や電話でも状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議に家族の代表が参加できるよう検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職や異動を最小限に抑える努力をしており、この1年間はほとんど離職や異動がなく馴染みの関係が保たれ、利用者は安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れ、職員を段階に応じて法人内外の研修に積極的に参加させている。職員は意欲的に資格取得を目指し、自らのレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換を行い交流を行っている。また、法人内の介護施設ともレクリエーション等を通じて交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅や施設を訪問し、利用者の生活環境や家族の状況等の把握に努めている。また、本人や家族にホームを見学してもらい徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に料理や後片付けを行ったり、掃除や洗濯物たたみ、花の手入れ等を共に楽しみながら相互に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を一部採り入れ、利用者の表情や言葉等を観察、記録し、利用者の意向や希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画にセンター方式を活用し、利用者、家族の意向や希望を採り入れ、ミーティングで充分話し合い、職員の気づきやアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを定期的に行い、家族や関係者の意見や希望を採り入れ、3か月に1回評価の見直しを行っている。また、状態の変化がある場合には随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、通院や外出等柔軟に支援している。また、2階のディサービスとボランティアのイベント等に参加し交流している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者がこれまでのかかりつけ医を基本としているが、併設の母体医院でいつでも受診や気軽に相談できる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人や家族、関係者と話し合い、ターミナルケアを行う方向で前向きに検討している。その実現のために現在2ユニットの計画を進めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りや人格を損ねることのないよう細心の配慮をしている。また、記録物の取り扱い等について適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして1日の基本的な流れはあるが、利用者の思いや希望を優先して、自分のペースで自由に暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量の範囲で、職員と一緒に食事の準備や配膳、後片付け等を行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。職員一人が検食者として利用者と一緒に同じ食事をしている。		職員皆で、同じ食事を取り、食事を共に楽しむことができるようさらに取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に1回を原則としているが、希望があればいつでも入浴が出来るよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の手伝いや配膳、後片付け、洗濯物たたみ、花壇の手入れ等利用者の持てる力を引き出し、喜びのある日々が過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園までの散歩や買物、月に1回の遠出のドライブ等出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に通じるリビングに1か所鍵をかけているが、利用者が自由に開錠できる。センサーの利用と見守りで、外出される時は、寄り添い一緒に外出している。		さらに鍵をかけずに、見守りを重視したケアの取り組みをすすめてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地元消防団の協力を得て、災害避難訓練を行っている。ホーム独自でも頻繁に避難訓練を行っている。	○	非常災害時で特に夜間の対応については、職員の対応だけでは限界があるので、日ごろより近隣の人々の協力が得られるよう働きかけ、災害避難訓練に地元の人々の参加を呼びかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は毎日チェック表で管理しており、定期的に体重測定も行っている。毎月管理栄養士の助言を受け、バランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間はゆったりと過ごせる適度な広さで、壁には遠出の時のスナップ写真やカレンダーが飾られ、リビングにはテレビやソファが置かれ、家庭的で落ち着いて生活できるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具やテレビ、写真、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、利用者が居心地よく生活できるよう工夫している。		